The Zoological Society of Japan

# 日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究
# 17. エカドルヤスデ科の1新属とヒトフシムカデ属の1新種

三 好 保 徳 (愛媛松山北高等学校)

昭和 31 年 3 月 19 日 受領

1. *Eucondylodesmus* gen. nov. (Oniscodesmidae)

体節は雌雄共に 19, 頭頂部と前頭部とは殆ど直角をなし境界は隆起して稜線をなしており両部共に微小な顆粒が密生している。後頭部は頸板によつて少し覆われている。触角は互いに接近して生じその間へ前頭部がうね状に隆起して入りこんでいる。触角は短かくて棍棒状, そしてその各節には多くの鱗状瘤隆起がある。胴の断面は円形に近いが腹面はふくれていない。第2側庇は下方へ向つて大いに発達している。第2側庇と第 5 より第 18 側庇に至るまでの側庇とは下方へ向つてよく発達し且側縁にはきれこみがある。肛門節は背面からよく見え円錐形をしている。生殖肢の基節は大形で左右正中で接着している。基節棘は正常。前腿節部は卵形。腿節部は細長くのび多少彎曲していて脛跗節とは明らかに境がある。脛跗節は扁平長刀状である。

Acta Arachnologica Vol. XIII, No. 1, p. 22 に高島, 芳賀両氏によつて報告された「伊豆諸島産馬陸類」の中, 八丈島から得られ *Kylindogaster* sp. とされたものはその記載文と図から, 正にそれはここに筆者が新属種として記載しようとするヤスデと同じものであることがわかる。今筆者がこの今日では既に日本でない沖縄の洞窟からとられたヤスデ *Kylindogaster* の一種と考えず, 別にこれを新属としようとする理由は次の諸点にある。即ち先ず *Kylindogaster* の原記載* をみるに原著者である Verhoeff 氏によつて比較研究された諸属の中 *Hynidesmus* と *Schedypodesmus* とは先ず後者がその後 Attems 氏によつて** 近縁の別の科 Cryptodesmidae に入るしかもその正体の不正確な属としてとりあつかわれ, 又前者は Oniscodesmidae に属するものではあるがこれ又その正体不正確な属の 1 群のなかにいれられている。これら 2 属はしたがつて分類学的に多少の疑問をもつ属のようである。それ故原著者がたとえ特にとりあげてその異同を論じているにしても, 我々はそれよりもさきに同科の近縁, 且正確な別属即ち Verhoeff 氏もその原記載中で比較している *Oniscodesmus*, *Trigonostylus* 等との比較をしてみる必要がある。さらに他の近縁な属をも加えてその異同を比較してみると *Detodesmus* 及び *Oniscodesmus* とは後環節と生殖肢の形態において又体節数において異なり, *Trigonostylus* とは又体節数と生殖肢において相異しさらに *Oncodesmus*, *Cryptodesmus* 等とは側庇後縁に深いきれこみがない点及び体節数において異るわけであるがこの相異は又本新属とそれら近縁の属との相異点でもある。さて次に最も注目さるべき本新属と *Kylindogaster* とはどの点において異るのであるか。次にその相異点を列記することにしよう。即ち *Kylindogaster* の属徴に対して本新属は

a. 触角の各節には多くの瘤隆起がありそれが鱗状にならぶ。
b. 頸板には 4 列の他の後環節には 3 列をなす多くの瘤隆起があるがその各瘤隆起の横列において背面正中線の両側にある 1 対の瘤隆起は他のものより小形である。
c. すべての瘤隆起は球形に近く山形ではない。
d. 臭孔は第 5, 7, 9, 10, 12, 13, 15, 16, 17, 18 側庇に明らかである。

さらに重要な生殖肢の形態については *Kylindogaster* の雄が全く未発見であるために比較することが出来ないが上記の点のみについてもこれを *Kylindogaster* のなかに包含させるわけにはゆかないと考える次第である。

* ,,Zoologischer Anzeiger", 1. 10. 1939, Bd. 127, Heft 11/12.
** Das Tierreich. 70. Lieferung. Polydesmoidea III.



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



属模式種： *Eucondylodesmus elegans* Miyosi

（付記） *Kylindogaster* がいる沖縄を失つた現在の日本では久しく Oniscodesmidae のヤスデを見ることが出来なかつた我々はここに *Eucondylodesmus* を得た次第である。

*Eucondylodesmus elegans* sp. nov.（ウチカケヤスデ）

体色アルコール漬では白色又は黄白色，生時もほぼ同色。雄体長 5.5mm，雌では 6.1mm，雄雌共に胴節 19。頭頂の正中には溝あり。触角の第 5，第 6 節の先端背側には感覚棘が群生し，第 6 節では特にそれが著しい。頸板は頭幅よりやや幅せまく 4 列の乳頭状突起があるが，その数や形は大体図示せる通りである。第 3 及び第 4 側庇は単純に尖り，第 2 及び第 5 から第 18 側庇の側縁には 2 つの切れこみがあるためにそこは 3 小葉に分れている。側庇上にある臭孔は円形で，少し隆起した疣状物の上に開いている。第 2 側庇は大形で，その前縁は前方へふくれ出しており，後縁にはきれこみがある。各後環節上の乳頭状突起の数は 10-20 個であり，各突起は球形で微小な毛状物でおおわれ且各 1 本の短枝ある又は枝のない棘を生じている。肛門節は円錐形でこの節にも 4 列の乳頭状突起があるけれどその数は少ない。
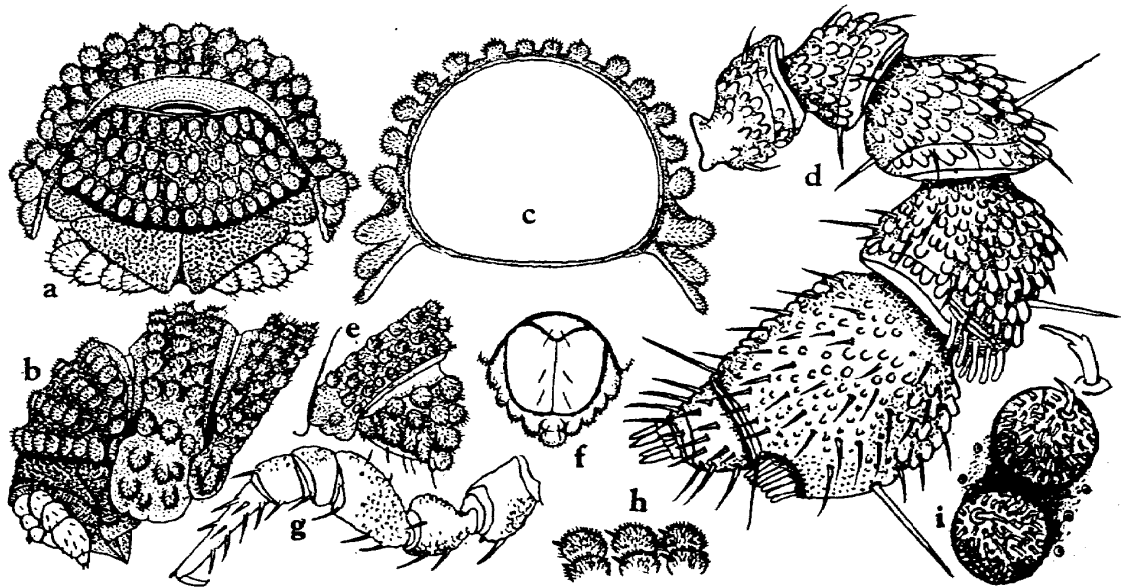
Abb. 1. *Eucondylodesmus elegans* sp. nov. a: Kopf von vorn b: Kopf von lateral c: 3. Segment von hinten d: Antenne e: Telson f: Analsegment von unten g: 8. Bein des ♂ h: Warzen des Metazonits i: 2 Warzen sehr vergrössert.

生殖肢： 基節短大，その外側面に小顆粒と若干の棘毛とがある。腿節部は細長く少し彎曲し，数本の棘あり，その先端部には腺状毛が密生し，さらに内側に 2 本，外側に 1 本の角状突起がある。脛跗節は扁平で彎曲し，内側に約 10 本の櫛歯状突起があり，それにつづいて最先端部には 5 本内外の小歯状突起がある。

Holotype は体長 5.5mm の雄，Allotype は体長 6.1mm の雌。模式産地は江の島（神奈川県）。その他の産地のうち伊豆七島の青ケ島，休戸郷（ヤスンドゴウ）の林中朽木の間から 1954 年 11 月 4 日資源科学研究所の小林純子氏によつて採集された。青ケ島において採集された他の多足類は既に公表* したが，それらは皆本州にも産するものであつた。ところがこの新属のヤスデも，本文のはじめに記したように伊豆八丈島にも産し，さらに又，既に 1951 年芳賀昭治氏によつて神奈川県下の大山，溝の口，江の島等において採集されていたのである。そして私はその標本を以前頂きながら調査をおこたつていたのであつた。今各地

* 資源科学研究所彙報 第 38 号 (1955)



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



のものをくわしく比較研究し，それらが同一のものであることを知つた。したがつて本種もまた青ケ島特産のものでないことがわかつた。江の島から 1951. 6. 28 雄 3, 雌 17, 1951. 8. 21, 雌 3, 幼 4。青ケ島 1954. 11. 4, 雄 2, 雌 4。採集し且標本を調査する機会を与えて下さつた芳賀昭治氏，小林純子氏へ深い感謝をささげる次第である。

Abb. 2. *Eucondylodesmus elegans* sp. nov. j: 2. Seitenflügel des Weibchens k: 12. und 13. Metazonit l: Telson von oben m: Vorderkopf n, o, p, q: Gonopoden.

2. *Monotarsobius caecigenus* sp. nov. (ナガトヒトフシムカデ)

本新種の特徴は次の通り。

1) 体長は 17 mm 位になり体色は黄褐又は淡黄褐色。頭板は横径が縦径より少し大 (9 : 7) で，その背面に若干の剛毛を散在している。

2) 触角は 20 節，末端節はその前の 2 つの節の長さの合計とほぼ同長或は少し短い。

3) 眼は全くない。頭側器官は大形で卵形。

4) 基胸板の前縁歯は 2+2。副棘は小形。外斜縁は副棘のところで少し膨れ，それから急に斜下し，再び大いに膨出している。

5) 顎肢の転前腿節は長大で，その外縁は円形にふくれ出ていて直線的ではない。それから先端の内縁は少し膨出し内側中央には境線がある。腿節，脛節はともに幅が長さよりはるかに大である。
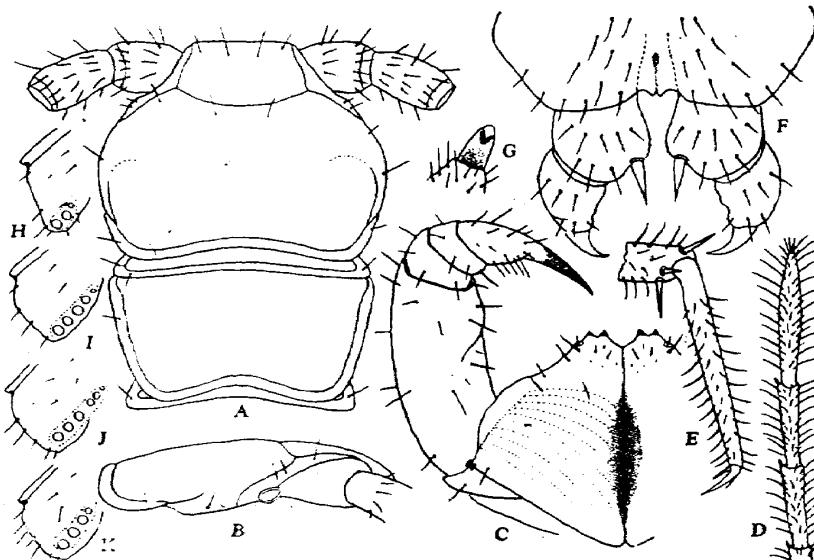
Abb. 3. *Monotarsobius caecigenus* sp. nov. A: Vorderende von oben B: Kopf von lateral C: Kieferfuss D: Antenne E: 4. Bein F: Gonopod G: Endteil des Gonopod H, I, J, K: 12. 13. 14. und 15. Bein.

6) 各背板の横径と縦径との実測による比は次のようである。1. T. =84 : 48, 3. T. =76 : 72, 5. T. =76 : 80, 7. T. =77 : 78, 8. T. =74 : 89, 10. T. =73 : 94, 12. T. =67 : 87, 14. T. =63 : 64。

7) 背板の背面と縁取りの上とには数本の長い剛毛を生じている。第 1, 第 3, 第 5, 第 8, 第 10, 第 12 背板の後縁は各々殆ど同様に同程度に湾入していて後角は円く，そこが 3 角形に突出していることはない。第 7 背板の後縁は直線的で湾入していない。

8) 第 12-15 歩肢の基節腺



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



孔はそれぞれ 2-3, 3-5, 4-6, 3-4 で略円形である。

9) 雌の生殖肢棘は 1+1 で長くよく尖つている。末端爪は単純で分れていない。

10) 第1歩肢 $\frac{1-2,\ 2,\ 1}{0-2,\ 1-3,\ 1-2}$, 第14歩肢 $\frac{1,\ 0,\ 3,\ 1-2,\ 0}{0,\ 1,\ 3,\ 2,\ 1}$, 第15歩肢 $\frac{0,\ 0,\ 3,\ 1,\ 0}{0,\ 1,\ 3,\ 2,\ 1}$

Holotype は体長 17mm の雌。その産地は山口県美禰郡, 姫山, 1952年8月17日, 京大上野俊一氏によつて採集されたものでここに深謝する次第である。


## Résumé

# Beiträge zur Kenntnis japanischer Myriopoden
# 17. Aufsatz: Über eine neue Gattung von Oniscodesmidae und eine neue Art von *Monotarsobius*

Yasunori MIYOSI (Matuyama Kita Koto-Gakko)

1. *Eucodylodesmus* gen. nov. (Oniscodesmidae, Diplopoda)

Diese neue Gattung unterscheidet sich von verwandten Gattung durch die folgenden Diagnosen: Männchen und Weibchen mit 19 Rumpfsegmenten. Saftlöcher auf den Segmenten 5, 7, 9, 10–12, 13, 15–18. Antenne kurz, keulenförmig, mit Wärzchen- oder Schuppen-struktur und das 6. Glied das dickste. Querschnitt des Rumpfes erscheint fast wie Ring, aber Ventralseite nicht gewölbt. 2. und von 5. bis 18. Seitenflügel mit einigen Einschnitten am Seitenrand. Von Collum bis 18. Metazonit mit 3–4 Querreihen, die aus vielen runden Warzen bestehen, die dicht mit winzigen Stiftchen und einem Stachel besetzt. Telson kegelig und von oben gesehen sieht es breit aus. Die kurzen Beine werden von den Seitenflügel ganz bedeckt. Gonopoden: Hüfte gross, Hüfthornchen normal. Präfemurofemur ziemlich langgestreckt und deutlich abgegrenzt gegen das gebogenschwertförmige Acropodit.

Gattungstypus: *Eucondylodesmus elegans* Miyosi

*Eucondylodesmus elegans* sp. nov.

Farbe weisslich oder gelblichweiss. Männchen 5.5mm lang, Weibchen 6.1mm lang. Kopf mit zahllosen winzigen Rauheiten. Antenne wie sie sich in Abb. 1, 4 zeigen. Collum enger als Kopf und mit 4 Querreihen von runden Warzen, auf denen winzige Stiftchen dicht vorhanden. 3. und 4. Seitenflügel ist nach unten verschmälert nnd ohne Einschnitte am Seitenrand. 2. und von 5. bis 18. Seitenflügel mit zwei Einschnitten am Seitenrand, dadurch dort mit drei Läppchen. Saftlocher befinden sich auf der niedrigen Warze. Von 2. bis 18. Metazonit mit ungefähr 16–20 runden in drei Querreihen hintereinander angeordneten Warzen, und die dorsalmedialpaaren Warzen schmäler als die Benachbarten. Gonopoden sind merkwurdig, wie sie sich in Abb. 1 zeigen.

Holotype: Männchen, 5.5mm lang. Allotype: Weibchen ca 6.1mm lang. Fundort: Enosima (Kanagawa-Ken). Vert.: Aoga-Sima und Hatijo-Zima (Idzu-Inseln), Mizonokuti, Enosima und Oyama (Kanagawa-Ken), Japan.

2. *Monotarsobius caecigenus* sp. nov.

Diese neue Art unterscheidet sich folgendermassen klar von den anderen, die zu derselben Gattung gehört: Körperfarbe gelblichbraun oder hellgelblichbraun. Weibchen ca 17mm lang, mit 20-gliedrigen Antennen, deren Endglied etwas so lang wie zwei vorletzte Glieder. Ocellen fehlen gänzlich, die Schläfenorgane gross und eiförmig. Kopfschild etwas breiter als lang. Coxosternum mit 2+2 Zähnchen, Porodonten schmall und an der Basis etwas angeschwollen, neben ihnen der Rand steil abgeschrägt und wieder merklich angeschwollen. Trochanteropräfemur nach aussen so erweitert, lang und stämmig. 8., 10. und 12. Tergit ist länger als breit. Poren der Coxaldrüsen rundlich: 2–3, 3–5, 4–6, 3–4. Gonopoden des Weibchen mit 1+1Genitalspornen, die Klaue lang, hakig gebogen und einspitzig. Holotype: Weibchen 17mm lang. Fundort: Himeyama (Yamaguti-Ken).




NII-Electronic Library Service